こんにちは

村田けい子です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員　村田桂子　立科町塩沢1483　☎0267(56)2868

2017
11.17
№ 128

台風の被害　こんなにも

11月7日全員協議会への報告より

●10月22～23日　台風21号

・24時間雨量　128．5mm　　・最大瞬間風速　22.5m/s（秒速）（23日5:25分）

で被災したものについて　応急措置、早期復旧経費の不足分は予備費を充用し、その他は12月補正予算で対応予定。

（１）町道関係　概算事業費２８５万円
　応急処置、16か所　（土砂流入6か所、路面洗堀2か所、倒木8か所
　本復旧　4か所（法面復旧）

（２）農地・農業用施設・林道関係　概算事業費　652万円
　農地　6か所、農業用施設2か所　402万円
　林道　2か所

（３）農水産物被害　総額4732.8万円
　リンゴ　10%落下　4732.8万円
　稚魚（ニジマス、いわな）　4万匹　49.2万円

（4）家屋等
　屋根・壁　３棟（内１棟　罹災証明問合せあり）
　床下浸水　4棟（虎御前）・・・町民課で消毒

（５）その他
・蓼科地区水道本管破裂、観音寺マンホールポンプ故障
・中尾美上下簡易水道配水地の滅菌装置が停電により停止　（手動により対応）
・主要地方道諏訪白樺湖小諸線　倒木による通行止め　（25日10時ころ全面閉鎖）
・中尾美上下地区の停電　（全戸復旧　24日　20:30頃）
・マレットゴルフ場　倒木により下のコース閉鎖　現在は復旧、利用可。

天候不順で稲刈り、脱穀ができず、台風で稲束を架けたハゼが倒れて脱穀までに1と月もかかった人もあります。お見舞い申し上げます。

収穫間際のコメが水浸しとなり、リンゴも1割が落下したそうです。私の知人から、「被災りんごでも構わないので、分けてもらえないか」と伝言がありました。どなたかいらっしゃいましたらご連絡ください。

路肩の崩れた道路

●10月29日　台風22号　24時間雨量　５７ｍｍ
・町道　倒木による通行止め　1か所（梨の木線）
・県道　主要地方道諏訪白樺湖小諸線　倒木により片側通行止め　（現在は復旧）

おいしい立科の水が飲めるのは・・・

11．8　立科中学校で塩沢堰と六川長三郎についてのお話

「塩沢堰と六川長三郎を伝える会」で作ったリーフレットを全校生徒に配って説明。

「わずか10分では伝えきれない。30分あったらなぁ」とは講師の弁。お疲れ様でした。

授業が始まる前の15分間、体育館に全校生徒を集めて土地改良区で長く働いていらっしゃった両角正芳さんを迎えて、おいしい水が飲める訳、おいしいお米やリンゴが獲れる理由を熱を込めて語っていただきました。

六川長三郎さんが、大変な苦労をして、蓼科山の水源を探し当て、私財を投じて、石樋を作り　西塩沢の田屋原までの55kmの水路を拓いて今日の美田の基を作ったこと。又湧き水の水をそのまま飲料としているため、くせのないおいしい水が飲めることを、コンパクトにまとめて語られました。子どもたちの心にどのように届いたでしょうか。

今週のパチリ

立中饅頭

立科中学校で六川長三郎さんについてのお話会ののち、校長室で再びお茶を戴きました。
その折、出していただいたのが、お饅頭2つ。白と茶色の皮にクッキリと「立中」の文字が焼き付けられていました。中はしっとりしたアンコ。美味しかったです。グッドアイデアです。塩菓堂製。

中学校で行われる諸行事に参加される来賓などのお客様にさしあげるとのこと。いいお土産になりました。

11・8　小諸・東御・立科の議員研修会

「地域の観光資源の活かし方と観光連携」と題して、講演がありました。講師は長野大学環境ツーリズム学部の熊谷圭介先生でした。

新しい観光を紹介する熊谷圭介先生

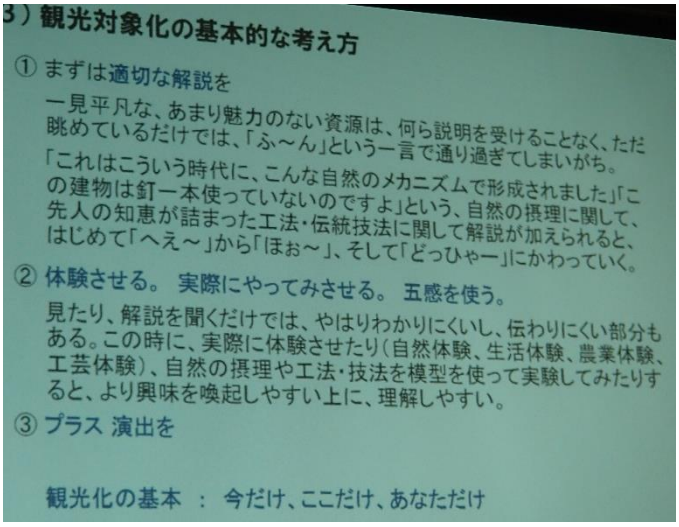
立科町などは、年々人口が減って地域の活力の縮小傾向が懸念されますが、地域の活力を取り戻すには、地域の暮らしそのものを観光にして、多くの観光客を誘致できるようにすべきと、様々な事例を紹介して説明されました。

これまでの旅行商品は，旅行社が企画した名所・旧跡めぐりなどの一過性のものでしたが、これからの観光は、一人ひとりのニーズに合わせた**「今だけ、ここだけ、あなただけ」がキーワード。**

行った先で（到着地）の側が提供する「地域主導型旅行商品」を用意することが必要　とのことです。現地で選べる“オプショナルツアー”を用意することで自分に合った体験を選ぶことができ、忘れられない感動的・魅力的な旅行となります。

そのために観光地側の旅行会社・観光協会・NPOが主導で作るツアーが必要です。

つまり、立科町の今でなければ体験できない行為・体験・感動をメニュー化して、そこに住む人々と交流することで、その人個人の興味や関心に応じた体験をしてもらい、リピーターとなってもらおうというもの。また一人ひとりの感動をそれぞれ、SNSなどで発信してもらうことで、多くの観光客誘致につなげようというものです。



「よそ者・若者・馬鹿者」が地域を元気にするといわれます。よそから来た人などが地域の魅力に気づき、彼らの目線でメニュー化すると応募が殺到し成功すると事が多いともいわれました。

観光メニューを作るには①まずは適切な解説を②体験させる、実際にやってもらう、五感を使う。③プラスの演出　　が基本ということ。

立科町には多くの手仕事が残っており、みな普通にやっていることが素晴らしく驚きです。

男性だったらソバ打ち体験は一番やってみたいことだそうです。

私はさらに、地元の食材を活かしたお焼きつくり、こねつけ、お団子づくりなどの郷土食体験、そして地元の人しか知らない場所での釣りやキノコ、ワラビなどの山菜採り、田植え、縄ない、竹の伐採や間伐、稲刈、脱穀、リンゴの収穫、選別などの農作業や、おみこし担ぎなど祭りへの参加体験、盆踊りの練習と踊り手募集など、立科町の暮らしそのものを体験観光として発信し、一緒に働いてもらう。終わった後はそれぞれの家庭料理でもてなす。そんな第2の故郷ともいえるおもてなしが旅行者、特に若い人たちを惹きつけるのだと思います。都市部の人はみな人との温かい触れ合いを求めています。単なる見るだけの観光ではなく、心からのもてなしや自分が認められるという実感が欲しいのではないでしょうか。いろいろと学ぶことの多い講演でした。

11/12（日）今年も新ソバまつり

少し肌寒い日でしたが、新ソバを堪能できるとあって、多くの住民が押しかけヒスイそばに舌鼓。去年はお昼にはもう品切れだったこともあり、今年は昨年よりも大目に用意したとのこと。

私がお邪魔したのは1時半ころ。ピークは過ぎたころでお客さんはまばらでしたが、それでもポチポチ家族連れなどが訪れそばを手繰っていました。

おなかが空いていたので、おいしくいただきましたが、大勢のスタッフのみなさん、前日からの準備は本当にお疲れ様でした。でも昨年あった焼き芋、イワナの塩焼きはありませんでした。ちょっと残念。

せっかくのイベントなので音楽や太鼓のステージやそばにまつわるクイズなんかがあってもよりいっそう楽しめると思います。